訪問看護ステーション連絡協議会だより

第48号

発行年月　2024年9月
発 行 所　岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
〒700-0805 岡山市北区兵団４－３９
岡山県看護研修センター３階
TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
https://okayama.houmonkango.net/
E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
発行責任者　菅 﨑 仁 美

会長挨拶

一般社団法人
岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
会 長　菅 﨑 仁 美

皆様には、いつも岡山県訪問看護ステーション連絡協議会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和６年度も地域の実情に即した、将来を展望し時代の推移に適応した訪問看護で在ることをめざして協議会活動に取り組んでまいります。６月には介護・診療報酬改定により現場では対応を求められていますが、勤務環境の改善やレセプトのオンライン請求や資格確認の導入が進むことで安心・安全にまた効率化が図れる提供体制が期待されます。また、第８次保健医療計画、第９期介護保険事業計画のスタートにより高齢社会に対応するために医療と介護の連携を強化し地域全体で高齢者を支える仕組みを構築することが目指されています。まさに大きな変化の一年となります。

一方、各地では自然災害が起こり、被害が続いています。介護や医療の現場は影響を受けやすいので、有事に備えて事業所が迅速に対応できるような支援体制作りが急務です。また、４月に行ったハラスメントのアンケート調査ではハラスメントが多く報告されました。職場環境を改善するためにも対策が不可欠です。従業者が安心して働ける環境を提供するためにも防止のための教育や対策に積極的に取り組みたいと考えています。

来る２０４０年を見据えて訪問看護に求められる役割を考えながら、引き続き本県の訪問看護体制の充実に寄与すべく、様々な活動を実施してまいります。

皆様のより一層のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

賛助会員からのメッセージ

株式会社アークリード

代表取締役社長　岩田成矢

「多職種連携について」

岡山県内にて在宅医療福祉に関わるBtoB、BtoC事業を展開しております。

その中で、『アメポケ』という、岡山の医療介護に関わる専門職の方へ、「多職種連携」をテーマに研修動画の配信やセミナーを運営しております。（良ければGoogleで検索してみてください、無料で利用できます。）

特に訪問看護では、多職種連携について取り組む頻度が多いと思います。

私の考えではありますが、連携にも知識が必要です。例えば褥瘡ケアにしても、外的要因についてどうアプローチするかも大切です。

それは姿勢管理から移乗方法もですし、マットレスや電動ベッド、車いすの選定も大きく影響します。

それぞれの専門職が、大切なポイントを伝達し合える場づくりを通して、業界に貢献できれば幸いです。

➡連絡先 086-250-2555

富田ケアセンター有限会社

代表取締役社長　山中祥吉

倉敷市玉島にある富田訪問看護ステーションは2012年に開設し、住み慣れた在宅での生活を支え続け、すでに10年以上経過しました。

現在、医療的ケア児や療育、精神疾患への訪問も行っており、2024年に皮膚・排泄ケア認定看護師が加入しさらに専門的な支援を提供することが出来るようになりました。

また、リハビリも理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が在籍しており、生活に密着した安心した在宅生活の支援が行えるようなサービスを提供しています。看護師、リハビリ共に、0歳～ 100歳以上のご利用者に訪問しております。

今後も福祉ニーズが複雑化・多様化していくことが考えられるため、各専門職や事業所間での連携を図り、応えていきたいと思います。

➡連絡先 086-526-5900

利用者のQOLを高める訪問看護

～認定看護師とどう連携するか～

質問１　認定看護師は在宅でどのような活動をされていますか？

赤瀬）私は、がん性疼痛看護認定看護師であり、がんの症状管理に難渋しているような方やターミナルの方をご紹介頂くことが多いです。疼痛管理となると、薬剤管理を主にイメージされることが多いですが、なぜその痛みが起きているのか、しっかりとアセスメントをすることが重要だと感じています。専門性の高い看護師は根拠のあるケアを意識していると思うので、他職種にも対処の仕方をわかりやすく説明する力が備わっていると思います。自らの実践だけでなく、他職種や他ステーションの方々への指導や相談にも対応し、在宅看護の底上げを図るお手伝いができればと思います。

平元）私は摂食嚥下障害看護認定看護師なので、嚥下機能の評価や訓練、栄養状態の評価を行い、本人・家族・サービス提供者へ食事内容・介助方法などの食事支援・指導などを行っています。

質問２　実際の場面でどのように関わっているのですか？

赤瀬）PCAポンプでのオピオイド導入時に、医師と一緒に判断をしていくことも多いです。PCA導入は急性疼痛で一気に導入となる事がほとんどで、医師へ相談後到着までの間、急性疼痛をどのように管理できるか、また導入後に過量投与にならないよう、途中判断した事をタイムリーに状況報告することを意識的に行っています。
オピオイドの持続皮下注射の悪性腫瘍の鎮痛療法、またはインフューザーポンプを使用して化学療法を行っている患者さんの支援の依頼を頂くこともあり、その場合は専門管理加算を算定させていただいています。これまでは、医療保険のみでの算定でしたが、2024年度は介護保険でも算定されることになりました。

平元）摂食嚥下は日常生活の中にあり、ヘルパーさん達が実践する場が多いので、訪問時に嚥下機能評価を行い、ヘルパーさんと意見交換をしながら、実際食事介助を見てもらって指導をしたり、食事形態のアドバイスを行っています。病院では造影検査をして細かい指示が決められますが、自宅ではそれを忠実に守るのは難しいので、いかに摂取して頂けるかを、嗜好なども取り入れ工夫します。こういったケースは昼食時に食事介助に評価を含めて訪問する機会を作ります。
摂食嚥下に関しては言語聴覚士（以下STという）の代わりのように依頼があり、STと置き換えて説明されていて混乱を招くことがありますが、実際に看護師は摂食嚥下以外に体調管理を含め緊急時対応など全般的にみれるということで、安心して頂けています。

質問３　具体的に認定看護師と連携を取るためにどうしたらよいか、教えてほしいです。

赤瀬）ステーション間では専門性のある看護師との同行訪問も報酬算定は可能※１です。
２か所ステーションで訪問看護を担当させていただけると、連携の中で比較的情報交換もしやすく、専門性のある看護について、助言等は行えるかと思います。
病院の認定看護師と連携を取る場合は、入退院のタイミングや、ストマ外来や緩和外来などの専門外来を受診の際に関わっていると思うので、意識して相談するようにすれば、上手く連携ができるのではないかと思います。
認定看護師の多くは、より広く活動の場を拡げたいと考えていますので、在宅側から病院に働きかけて地域に出てきてもらうことは必要と感じています。

平元）摂食嚥下について算定はできませんが、他ステーションとの連携で介入することもあります。在宅ケアアドバイザー制度※２などの活用も出来ると思います。実際ステーションからの依頼は無いので、周知されていないのではと感じています。また研修などでお会いすることがあれば、それをきっかけに相談してくれれば、可能な限り対応したいと思っています。

インタビュー風景

インタビュー

訪問看護ステーション晴

がん性疼痛看護認定看護師　赤瀬 佳代
摂食嚥下障害看護認定看護師　平元 美由紀

赤瀬・平元両氏と取材した広報委員

質問４　活動する場(病院など)は多くある中で、あえて訪問看護の場で仕事をしている理由をぜひ教えてください。

赤瀬）一番は、その人の生き方や価値観がとてもよく分かり、自宅で自分らしく過ごせるようにお手伝いができることがとても楽しいです。症状管理がうまくいかないと、家での療養が困難になる方を多くみてきて、看護師として薬だけでなく、どのように上手く症状管理ができるのか看護の力量が試される部分もあります。訪問看護を通して、少しでも多くの人が自分の過ごしたい場で、心地よく過ごせるお手伝いがしたいと思っています。
すぐに相談できない。医師が常在する病院の方が安心という看護師が一般的には多いですが、ちゃんと勉強して根拠をもってやれることを示すことができれば、割りと訪問看護を信じてくれる在宅医は多く、安心して仕事が出来ると思っています。
利用者さんは基本的に何もなければみんな家に居たくて、本人たちが楽しそうに落ち着いて過ごせていたら、純粋に看護師として嬉しく、それで十分だと思います。それを阻害する要因を自分がやれることは対処してきたいなと思っています。それにはある程度専門性のある知識や技術もって、看護師たちが自信をもって安心して働ける場を作っていく、それを示すことで看護師が地域の中で安全に働けると言う所を「晴」を通して少しでもみんなに示していけることができたらいいかなと思っています。

平元）病院ではSTが在籍し、安全を確保した状態で訓練や食事をしていますが、在宅では食事介助は介護職が中心で、これまで不安に思いながら実践している状況を目の当たりにし、指導・実践できる看護師を増やしたいと思い、訪問看護を選びました。
病院は、安心して食べたり飲んだりできるフィールドだと思いますが、食べることと言うのは生きて行くことの一部なので、在宅で最期まで食べたいというのはみんなが思う所だと思います。そこを支えていくのはやはり介護職や地域の方々ですが、根拠を持って、具体的な評価ができる看護師を増やさなければ、なかなか底上げができないと思います。多くの方にとにかく最期まで口から食べてほしい。そこを支えるのは看護師がとても重要な役割を持っていると思うので、予防的観点を含めた知識・技術のある訪問看護師をもっと増やしたいと思っています。

［補足］　※1　「訪問看護基本療養費（Ⅰ）のハまたは（Ⅱ）のハ」（訪問看護管理療養費の算定はできない。）12,850円（月１回）で、①緩和ケア・疼痛コントロール、②褥瘡・皮膚・排泄のケア、③人工肛門ケア・ストーマ管理、④人工膀胱ケア等は診療報酬算定が可能
※2　在宅ケアアドバイザー派遣事業　　（お問合せ先）公益社団法人岡山県看護協会

後記

今回お二人から貴重なお話を伺って、それぞれ専門性のある看護師と繋がることで、これから訪問看護を目指す若いスタッフたちが、自分たちもやってみたい、専門分野の幅が広げたいと思ってもらえるといいなと感じました。専門分野を学び深めることで、それが結果的に看護の質を上げ、ステーション全体の底上げへと繋がると思います。

地域で活動している認定看護師・特定行為研修修了者と訪問看護師との交流会に参加して

令和６年８月22日開催
課題検討委員会　森戸雅子

「認定看護師・特定行為研修を修了した看護師の役割を知り地域連携をしよう」をテーマとして、4名の方々（皮膚・排泄ケア（B課程）認定看護師、訪問看護（A課程）認定看護師、認知症看護（A課程）認定看護師、特定行為研修修了者）から話題提供をしていただきました。

認定看護師からは、具体的な役割、症例、情報共有や連携方法等について、訪問看護師にイメージが伝わるような説明がありました。特定行為研修修了直後の訪問看護師からは、受講の動機、受講中の課題、修了までの支えや現在の取り組みについて、これから受講をめざしている訪問看護師の参考になる具体的な内容でした。
話題提供後は、５グループでグループディスカッションを実施しました。グループで、連携をどのようにしていくか、診療報酬に反映されない場合はどうなのか、認定看護師としての活動日の確保が難しいこと、どのように認定看護師に相談したら良いかわからない等、日頃から認定看護師や訪問看護師が思っていることを遠慮なく話せる貴重な機会が得られました。
あっと言う間の３時間でしたが、今日の関係性、顔の見える関係性を大切にし、このつながりを出発点として、看護職同士が組織を超えて繋がる難しさを克服するための術を学ぶ必要性も再認識しました。それぞれの立場で、看護ケアの質向上を継続していくことの重要性を強く感じながら、外の暑さに負けないあつい時間を過ごすことができました。

つながりの輪を広げるステーションリレー

倉敷訪問看護サービスセンター

管理者　柚木 加苗子

倉敷訪問看護サービスセンターは平成４年５月に設立し、32年間地域に密着した訪問看護ステーションとして活動してきました。機能強化型Ⅰを算定しており、認知症看護認定看護師と特定行為研修を修了した看護師を含めた看護師27名が在籍し、小児・精神・難病と幅広いニーズのある利用者に訪問しています。要介護の高齢者世帯への訪問や発達障害のある若年者への訪問も増加傾向にあります。感染症や非常災害発生時の取り組みや個別避難計画、ハラスメント対策、人材育成のための研修等、訪問看護ステーションが担うものは大きくなってきています。2025年問題等の課題に事業所全体で取り組み、一つ一つ解決しながら、さらに前進していきたいと思っています。

まいんど訪問看護ステーション

管理者　伊丹 康恵

まいんどは、現在看護師５名とリハビリスタッフ３名、事務員１名で活動しています。日々、時間に追われていますが、いつも明るく賑やかな雰囲気のステーションです。診療所に併設されている為、他部署との交流もあり、気分の落ち込む日や、嬉しい事があった日も、皆で共有しあえるアットホームな職場環境が特徴的です。

一方で、働き方の改善、ICTを活用した情報共有、ケアの質向上に向けた研修の実施、災害訓練など、現在の課題に苦戦しながらも皆で取り組んでいます。

いつでも助け合える仲間がいる事に日々感謝しながら、患者さんの元へ少しでも心の温もりを届けられたらと頑張っています。

岡山版訪問看護ラダー別研修を活用しよう

会長　菅﨑 仁美

当会の研修はラダー別研修をとり入れています。ラダー別研修は、「現在の自分が看護師として何を望まれているのか」「今後どのような学習をしていけばよいのか」という到達目標を段階的に示し、看護の質向上・自己学習や技術の習得状況の目安とすることができます。スタッフは日々の業務で見失いがちな自分の役割や今後の目標を再確認することができ、指導者はそれぞれの到達目標に応じた適切な評価をおこなうことができます。

訪問看護師が成長するために必要な項目の為毎年同じ項目を繰り返していますが、内容は皆様のご要望やトピックスを取り入れたものにしています。今年度より、ラダー別研修に法定研修の内容を取り入れました。演習やグループワークを含めた充実した内容となっており参集研修はWeb研修とは違い、他事業所との交流もできます。現場は忙しく、「受講する人が重なる」「人数が少なく一度に受けられない」などの状況がある中ですが、計画的に受講され、資質向上に研鑽を積むことができればと考えます。

マッチングプラザ2024に出展して

「介護サービス博覧会中四国　マッチングプラザ２０２４」が、令和６年５月28・29日とコンベックス岡山で開催されました。今年も広報委員会メンバーと事務局スタッフで、訪問看護の広報活動の一環で参加させて頂きました。連絡協議会のHPの充実活用をテーマに、新たに作成したQRコードを活用してもらうため、今年はケアマネジャーさんを中心に、パンフレットを手渡しながら説明を行いました。私達の熱のこもった説明を沢山の方が足を止めて聞いて下さいました。想像以上に好評で、準備したパンフレットが足らず、途中何度も追加しました。今回の広報活動が少しでも各事業所へ良い形で繋がれば良いなと願います。

あなたのまちの

岡山県内訪問看護ステーションマップ

岡山県内訪問看護ステーションガイド

☎086-238-6688

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会

編集後記

介護・医療同時改定で始まった令和6年度。介護報酬改定において専門性の高い専門看護師による訪問看護の評価として『専門管理加算』が新設されました。

しかし、実際に専門看護師等と関わる機会が少ないことも実情。そのため今回は対談という形で専門看護師の方にインタビューさせていただきました。

その中で感じたのは『在宅愛』。在宅が好きで訪問看護がおもしろい!そんな想いが紙面を通して伝われば幸いです

広報委員一同